



2027年1月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年9月9日

上場会社名 株式会社あさくま 上場取引所 東
コード番号 7678 URL <https://www.asakuma.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 廣田 陽一
問合せ先責任者（役職名） 管理本部 本部長（氏名） 三宅 伸幸（TEL）052(800)7781
半期報告書提出予定日 2026年9月11日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年1月期第2四半期（中間期）の業績（2026年2月1日～2026年7月31日）

（1）経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年1月期中間期	5,859	27.2	168	△6.1	172	△4.8	92	△26.3
2026年1月期中間期	4,606	—	179	—	181	—	125	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年1月期中間期	8.78	8.78
2026年1月期中間期	11.85	11.85

（注）1. 当社は、2025年1月期第1四半期は連結業績を開示しておりましたが、2025年1月期第4四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、2026年1月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 当社は、2026年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり中間純利益及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益を算定しております。

（2）財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
2027年1月期中間期	4,583		3,052		66.6
2026年1月期	4,952		3,395		68.6

（参考）自己資本 2027年1月期中間期 3,052百万円 2026年1月期 3,395百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年1月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年1月期	—	0.00	—	—	—
2027年1月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年1月期の業績予想（2026年2月1日～2027年1月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,300	22.4	660	27.3	670	27.2	409	26.0	38.64

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は、2026年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、1株当たり当期純利益は株式分割後の数値を記載しております。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2027年1月期中間期	10,770,040株	2026年1月期	10,770,040株
2027年1月期中間期	273,714株	2026年1月期	141,638株
2027年1月期中間期	10,584,364株	2026年1月期中間期	10,628,523株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

(注) 当社は、2026年8月1日付で普通株式1株を2株の割合で株式分割を行っております。そのため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数(自己株式を含む)、期末自己株式数及び期中平均株式数(中間期)を算定しております。

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当第2四半期累計期間における当社の取り組みといたしましては、経営理念である「“食”を通じて、社会に貢献していく」に基づき、「お客様にびっくりしてもらう」ことをゴールに事業を推進してまいりました。

「ステーキのあさくま」業態の既存店売上高は、2026年7月までで44カ月連続して前年を上回り、当上期累計期間における既存店売上高前年比は115.8%となりました。前期から続く成長基調は当上期においても継続しており、これまで積み重ねてきた取り組みがお客様の支持につながっているものと考えております。

既存店の強化策として取り組んでまいりましたサラダバーの充実、ホットバーの導入、体験型デザートの開業は、来店動機の強化と「また来たい」と思っただけの理由づくりに寄与しております。サラダバーにつきましては、「お料理プランナー」制度を通じてお客様と一緒にメニューづくりを進めており、お客様と一体となった店づくり、いわば“カンタレス経営”の実践により、ともに価値を創り上げる関係づくりを進めてまいりました。こうした取り組みの一環として、4月および7月には新メニューを各4品、計8品導入いたしました。「ロンガンとキウイの爽やかライムゼリー」や「ゴーヤとしばわかめのクリスタルサラダ」など計8品を導入し、お客様から好意的な反応をいただいております。

加えて、「メロディアン」による店内演奏を60件以上開催したほか、新たな取り組みとして「あさくまアンバサダー」を開始いたしました。これは、あさくまを日頃から応援してくださっているお客様に、当社の取り組みや新商品情報を発信していただくことを目的とした施策であります。愛知、関東、大阪でキックオフミーティングを開催し、新商品の試食や寸評会、社長・会長も参加したファンミーティングなどを実施いたしました。こうした取り組みを通じて、あさくまの魅力をより深く知っていただき、その魅力を広く発信していただける関係づくりを進めてまいります。

このほか、「ガーデニングキーパー」による植栽の手入れなども行っており、商品・体験・空間のさまざまな面でお客さま参加型の取り組みを継続することで、他社との差別化を一層進めてまいります。

商品施策では、毎月開催しております「肉の日イベント」において、お値段そのままサーロインステーキを50%増量する企画を継続実施いたしました。さらに、6月からはサーロインに加え、テンダーロイン、ランプについても「お値段そのまま50%増量」企画を実施した結果、4割近いお客様にステーキをご注文いただくことができ、客単価も100円近くに上昇いたしました。「ステーキを食べるならあさくま」という当社ならではの価値を、引き続き多くのお客様にご評価いただいているものと認識しております。

また、スリープユーザーの再来店を目的とした食べ放題イベントにつきましても、店舗限定で毎月継続的に実施し、上期には計13店舗で開催いたしました。開催日には通常営業日を大きく上回る売上高（最大で通常同曜日比8倍超）を記録するとともに、開催後の継続来店にもつながっており、新規ファンの獲得と顧客基盤の拡大に寄与しております。

出店につきましては、「ステーキのあさくま」業態として、6月に4年ぶりの再出店となる「ステーキのあさくま京都伏見店」を出店いたしました。オープン以降、多くのお客様にご来店いただいております。7月の売上高は全店で最も高い実績となりました。さらに、8月には「ステーキのあさくま中部国際空港店」を出店しており、今後も中部・関西エリアにおける店舗網の再構築を着実に進めてまいります。

当事業年度は、「ステーキのあさくま」「カレーのあさくま」「厳選もつ酒場 エビス参」の3業態を合わせて10店舗以上の出店を計画しており、複数業態による成長ドライバーの拡充を図ってまいります。

前事業年度は、通期売上高が28年ぶりに100億円を突破いたしました。当第2四半期累計期間においても、通期計画に沿って進捗しております。引き続き、ご来店いただくお客様に「また来たい」と思っただけの店づくりを継続し、3年後の売上高200億円達成に向けた持続的な成長を目指してまいります。

以上の結果、当社の当中間会計期間における業績は、売上高が5,859,239千円、営業利益が168,131千円、経常利益が172,544千円、中間純利益が92,887千円となりました。

利益面につきましては、新規出店や既存店舗の修繕・改装に伴うコストの増加等により、前年同期を下回る結果となりました。一方で、上期中に出店体制、営業体制および人員体制の整備を進めたことで、足元では収益基盤の強化が進んでおります。なお、8月までの累計では、売上高、利益ともに計画を上回って推移しております。

また、中間純利益につきましては、前年同期に法人税等還付税額を計上していた一方、当中間期累計期間においては当該計上がなかったことなどにより、前年同期を下回りました。

当中間会計期間における店舗展開につきましては、直営店を5店舗出店したことにより79店舗となり、F C店4店舗を加えて83店舗となっております。

(2) 当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて688,220千円減少し、2,439,883千円となりました。主な要因は現金及び預金
が714,191千円減少したことによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて319,394千円増加し、2,143,377千円となりました。主な要因は有形固定資産
が360,788千円増加したことによります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて368,825千円減少し、4,583,261千円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて36,096千円減少し、1,407,165千円となりました。主な要因は未払金47,225千
円、賞与引当金36,000千円がそれぞれ増加した一方で、買掛金が63,025千円、その他に含まれている未払消費税等
66,949千円がそれぞれ減少したことによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて10,853千円増加し、124,024千円となりました。主な要因は資産除去債務が
10,853千円増加したことによります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて25,242千円減少し、1,531,189千円となりました。

(純資産)

純資産は、前事業年度末に比べて343,583千円減少し、3,052,071千円となりました。主な要因は自己株式を
436,470千円取得したことにより純資産が減少した一方で、利益剰余金が92,887千円増加したことによります。

この結果、自己資本比率は66.6%（前事業年度末は68.6%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末と比較して714,191千円減少し、1,727,219
千円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は156,339千円となりました。これは主に、税引前中間純利益172,344千円、減価
償却費82,239千円による資金の増加した一方で、未払消費税等の減少額66,949千円による資金の減少によるもので
あります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は434,060千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出
398,914千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は436,470千円となりました。これは主に、自己株式の取得による支出436,470千
円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点で2026年3月11日公表の業績予想に変更はありません。業績予想は発表日現在において入手可能な情報に
基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2026年1月31日)	当中間会計期間 (2026年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,441,411	1,727,219
売掛金	471,304	413,202
原材料及び貯蔵品	106,230	128,347
前払費用	59,070	73,392
未収入金	42,010	97,438
その他	8,077	283
流動資産合計	3,128,104	2,439,883
固定資産		
有形固定資産		
建物	541,506	786,116
構築物	30,528	52,040
機械及び装置	12,389	10,906
車両運搬具	279	139
工具、器具及び備品	145,414	218,098
土地	68,445	68,445
建設仮勘定	48,004	71,609
有形固定資産合計	846,567	1,207,356
無形固定資産		
借地権	16,747	15,826
ソフトウェア	627	476
無形固定資産合計	17,374	16,302
投資その他の資産		
差入保証金	523,539	556,444
繰延税金資産	348,682	275,562
長期預金	50,000	50,000
その他	37,818	37,711
投資その他の資産合計	960,040	919,718
固定資産合計	1,823,983	2,143,377
資産合計	4,952,087	4,583,261

(単位:千円)

	前事業年度 (2026年1月31日)	当中間会計期間 (2026年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	729,226	666,200
未払金	263,665	310,891
未払費用	232,018	220,431
未払法人税等	11,002	5,880
前受金	1,665	3,627
預り金	2,698	8,996
賞与引当金	24,000	60,000
株主優待引当金	48,401	68,684
その他	130,582	62,452
流動負債合計	1,443,261	1,407,165
固定負債		
長期預り保証金	22,200	22,200
資産除去債務	90,970	101,824
固定負債合計	113,170	124,024
負債合計	1,556,432	1,531,189
純資産の部		
株主資本		
資本金	91,756	91,756
資本剰余金		
資本準備金	609,890	609,890
その他資本剰余金	1,103,340	1,103,340
資本剰余金合計	1,713,231	1,713,231
利益剰余金		
利益準備金	551	551
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,697,239	1,790,127
利益剰余金合計	1,697,791	1,790,678
自己株式	△107,124	△543,595
株主資本合計	3,395,654	3,052,071
純資産合計	3,395,654	3,052,071
負債純資産合計	4,952,087	4,583,261

(2) 中間損益計算書

	(単位：千円)	
	前中間会計期間 (自 2025年2月1日 至 2025年7月31日)	当中間会計期間 (自 2026年2月1日 至 2026年7月31日)
売上高	4,606,014	5,859,239
売上原価	1,983,501	2,669,486
売上総利益	2,622,512	3,189,752
販売費及び一般管理費	2,443,493	3,021,621
営業利益	179,018	168,131
営業外収益		
受取利息	917	2,855
不動産賃貸料	1,719	1,900
その他	2,098	1,371
営業外収益合計	4,735	6,126
営業外費用		
支払利息	630	—
その他	1,861	1,712
営業外費用合計	2,492	1,712
経常利益	181,262	172,544
特別損失		
固定資産除却損	—	200
特別損失合計	—	200
税引前中間純利益	181,262	172,344
法人税、住民税及び事業税	5,308	6,337
法人税等還付税額	△17,367	—
法人税等調整額	67,370	73,120
法人税等合計	55,310	79,457
中間純利益	125,952	92,887

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前中間会計期間 (自 2025年2月1日 至 2025年7月31日)	当中間会計期間 (自 2026年2月1日 至 2026年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	181,262	172,344
減価償却費	56,112	82,239
固定資産除売却損益(△は益)	—	200
賞与引当金の増減額(△は減少)	32,521	36,000
株主優待引当金の増減額(△は減少)	21,054	20,282
受取利息及び受取配当金	△919	△2,857
支払利息	630	—
売上債権の増減額(△は増加)	13,738	58,101
棚卸資産の増減額(△は増加)	△4,520	△22,117
仕入債務の増減額(△は減少)	△20,197	△63,025
未払消費税等の増減額(△は減少)	△28,761	△66,949
その他	2,825	△49,835
小計	253,746	164,383
利息及び配当金の受取額	919	2,857
利息の支払額	△536	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	60,987	△10,901
営業活動によるキャッシュ・フロー	315,116	156,339
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△153,664	△398,914
差入保証金の差入による支出	△10,997	△32,984
長期前払費用の取得による支出	△2,499	△2,181
その他	24	20
投資活動によるキャッシュ・フロー	△167,137	△434,060
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△7,296	—
自己株式の取得による支出	△382	△436,470
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,678	△436,470
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	140,300	△714,191
現金及び現金同等物の期首残高	2,062,036	2,441,411
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,202,337	1,727,219

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

当社は、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。